



バチン！ バチン！  
はさみの音が つゆ空に  
こだまする

先輩がのこした「わたしたちの  
広場」  
語らいの園歌声の谷・読書の森  
いつまでも楽しい広場にと  
きょうもはさみを握る

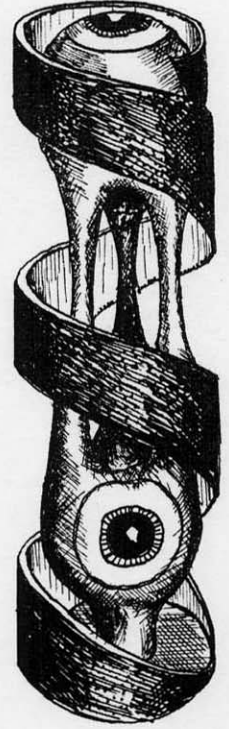
バチン！ バチン！  
はさみの音は  
校庭に広がっていく

昭和53年6月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会



(協力して松のミドリつみ-葵中)

## — 教育随想 —



## 学習の非可逆性について

梅原 半二

時の流れを逆に戻すことはできない。子どもの生育も、もとに戻すことはできない。このように、もとの状態に戻せないことを、非可逆という。

子どもが自転車に乗ることを覚える。何度も何度もころんで、どうにか乗れるようになる。これを習得という。習得すると、今度は、危なげなく走れるようにさらに練習を重ね、思い通りに自転車を乗りこなせるようになる。これを習熟という。この、習得と習熟の結果、自転車に乗るといふ学習ができた。

一度、しっかり学習してあれば、その技術は、一生涯についてしまう。つまり、この学習は、非可逆性であり、もとは戻らないであらう。

今から二十年前の話である。豊田市で育った小学校二年生の女の子に、「七」という字を「しち」と読むのだと教えたところ、女の子は、違う、「ひち」と読む。語気強く主張する。「先生が「ひち」と読めと教えた。友達も皆「ひち」という。「しち」と読めというあなたでも、ふだんは「ひちじゅうひち」などといっているではありませんか。「ひち」が絶対に正しい。子どもの論鋒は誠に鋭く、私はたじたじでした。私は、広辞林を出して、「しち」の項をみせた。子どもは、少しおとなしくなったが、納得し難い様子である。子どもにとって、權威の第一は先生であり、第二が書物であり、父が一番權威がない。私は、心の中で、子どもの

考えが間違っているとは思いつながら、うだ、わしさえ、ふだん間違えているのだ。どちらでもいい事にしよう。」とぼかしてしまった。ななつはひち」ということは、数年前までは、東海地方で育った者にとって、非可逆であったのではなからうか。

練習を重ねて習熟したものの、例えば、早く走るといふようなことは、練習をやめると、習熟度が低下したように感じる。体力が伴わず、習熟度を十分発揮できないのかもしれない。自転車の例のように、忘却はあっても、習得前の状態に戻ることはなく、非可逆である。

最近、神経生理学の発達は、人間の行動を管理し、性格を、根本的に作り変える技術の可能性に注意が向けられるようになって来た。その技術とは、薬や神経外科の手術、あるいは、系統的な刺激操作で、人間の行動を変えることが可能だといふのである。行動を変える方法には、可逆的なものと、非可逆的なものがある。薬や酒は前者に属し、脳手術は後者に属するであろう。大学教育も不可逆の方に属すると、米国の学者ガードナー・クオートンはいつている。学習理論は、深く掘り下げられつつある。学習の非可逆性も、もっと明確になるであろう。子どもの教育が、その生涯に、どれほど大きく、ついてまわるか。教育学の進歩と教育の改善が期待される。

(前豊田中央研究所長)



でんぐりかえった胃の腑

杉本 勝

午後の職員室に、Y先生の甲高い声が響きわたる。

「総体の申込みって、きょうじやないかしら……。」

「ん……。しまった。連絡を忘れた。」  
一瞬、胃の腑がでんぐりがえる。今は二時だから、総体準備委員会まで一時間しかない。さあ大変！まず、職員室中、平身低頭で用紙を配布。理科室へ、体育館へ、一階校舎へ、二階へ……。  
「すみません。実は、きょうが……。」  
「今日中？ええ！。今すぐだつて。しばらく自習……。」

あつちからも、こつちからも血相変えて各顧問が飛んでくる。学校名のゴム印に、校長印に、スタンプはと、机の上に並べて、できあがってきた順に、手際よく捺印。日ごろ無精なやつが、大サービスで働く。水泳は別の日だものだから、さっぱり気がきかず、悠悠とかまえていた矢先の大失態。それにしても、今朝からどうも心理状態が不安定であったのは、



シダ植物は、派手な花で人目を引くようなことはありませんが、葉の形や色彩、光沢が変化に富んでいるものが多く、まさに葉の芸術と言ったところで。市内のシダ植物は、現在のところ約百二十種ほど確認されています。特に市場の東部にあたる河合・東海学区がシダ植物の豊庫です。中には分布上貴重な種もかなり含まれています。

▼暖地系のシダ、この種のもものは市内にはあちこちに見られます。コモチシダは、厚みのある葉の表面に芽(子)ができるおもしろいシダで、須賀町に分布します。イブキシダは葉の切れ込みの美しいシダで、岩戸・才栗・須賀町に見られます。近年、蓬生町で発見されたイワヒトデ(西三河唯一の分布)や、蓬生町を西三



▲タニヘゴ

河の分布の北限とするアマクサシダも、岡崎に分布するシダ中で特筆されるものです。

▼寒地系のシダ、この種のもものは市内には比較的少なく、池金町に見られるタニヘゴがその代表種です。このシダは県下でもあまり見られません。

▼深山性のシダ、蓬生・古部・須賀町に分布するアオネカズラは地下茎が緑色なのでこの名がつけられました。大変美しいシダなので採取されてしまわないかと心配されています。

○湿原のシダ、池金・生平町の湿原に分布するヤマドリゼンマイは、尾瀬にも見られる湿原特有のシダです。

○崖・石垣のシダ、切越町の石垣の間に生えるチャセンシダは、茶道具の茶筌に似たかわいいうシダです。

これらのシダは、環境の変化に案外弱く、現在も減少しつつあります。なんとか守っていききたいものだと思います。

(葵中 千賀 敏之)



▲アオネカズラ

◀コモチシダ イブキシダ▶



このためだったのか。そして、タッチの差で無事、ゴールイン。失敗のあとの人の親切は身にしてみた。かくて、Y先生は一回食事代が浮くこととなった。(城北中)

## 花のかんむり

水谷 啓子

遠足の日、ようやくたどりついた目的地。子どもたちは、歓声をあげ、思い思いに散っていた。

やがて、ひとりの女の子が近づいて来て、花のかんむりを私にくれた。おとなしく、目立たない存在の前の子は小さな声で、「先生！」と言っただけであった。さし出されたものが、花のかんむりという子供らしくて、夢のあるものであった。せいか、一瞬私はドキッとした。なんてやさしい、なんと久しぶりの花かんむりだろう、と。

四月、始業式の日。初めて見る顔ばかりの緊張の日。小さな声で、「先生！」と、ドライフラワーの花束を私にくれた女の子がいた。きれいな紙に包まれ、シールがはられた、私の手のひらにのっけしないうような花束。見たこともない、新しい担任への期待と不安をこめて、ゆうべから用意してあったらしい小さな花束。

輝くような好意のこもったこの二つのことが、ああ、私は小学校へきたんだ！という思いを強くさせる。

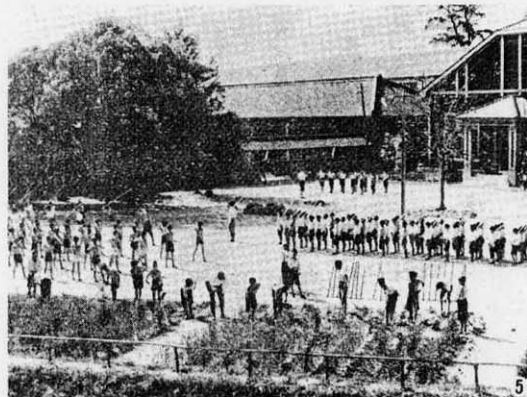
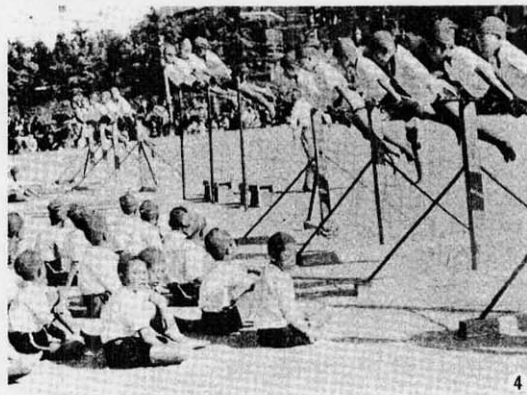
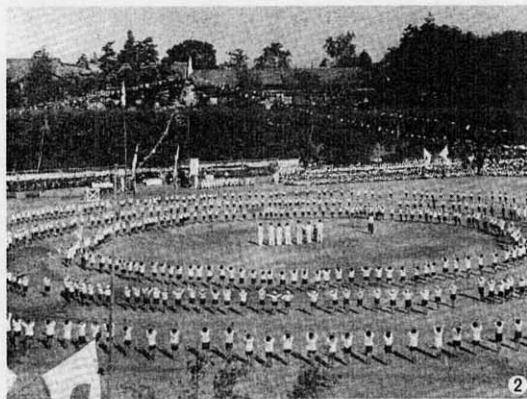
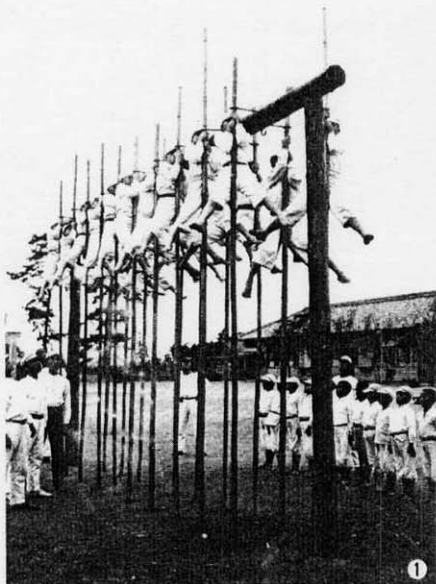
頑張らなくては……。

(六北小)



# 体力づくり

## 昔と今



「朝会で暑いとすぐ倒れる。」「骨がもろくてすぐ折れたり、捻挫したりする。」「腕力が無い。逆立ちなんか危なくてやらせられない。」  
 こんな声があちこちで聞かれる。  
 昔は、山野を走り、木に登り、川に遊んで、しぜん  
 に体力づくりが行なわれた。  
 このような昔に帰れとはとても無理な注文ではある  
 が、今のうちに何とかしないと、とりかえしのつかない  
 ことになる、とはだれも思っていることだ。  
 さて、今月は、昔と今の体力づくりを比べ、今後のあ  
 り方を探る手がかりとしたい。

- ① 全国に名をとどろかせた岡崎小学校の体育、大正六年七月撮影
- ② 戦前の岡崎公園グラウンドで行われた小学校連合運動会
- ③ 女子体練必修だったなぎなた
- ④ 移動式鉄棒による模範演技
- ⑤ 団杖訓練、食糧増産、戦時色濃厚
- ⑥ 古電柱を利用して腹筋運動
- ⑦ バランスと腕力と、綱渡り
- ⑧ リズムに乗って全校フォークダンス
- ⑨ 個性ある学校体操、集団構成美
- ⑩ 古タイヤ利用の遊具、前転
- ⑪ 一万余の中学生が参加した総体



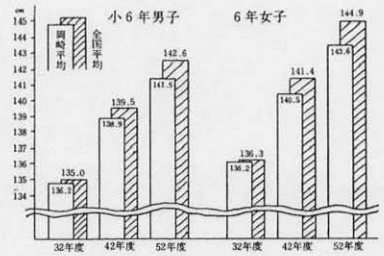
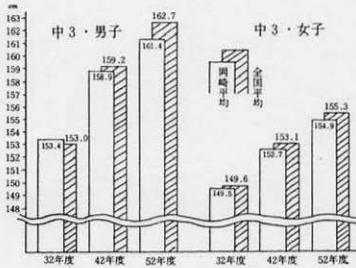


50 m 走の昔と今 (平均値)

年齢別身長平均値の推移

年齢別身長平均値の推移

地域	年度	性別	
		6年男	6年女
全 国	昭和10年	8.6秒	9.3秒
	34年	9.1"	9.5"
	43年	8.8"	9.1"
	51年	8.8"	9.1"
岡 崎	51年	8.9"	9.0"
	52年	8.5"	8.7"



(全国はS・10、野口源二郎氏 その他は文部省資料)  
(岡崎は某校の資料による)

第22回岡崎市中学校総合体育大会



## 教育日々



## 通信の一日

男川小 原 博司

「今日は輪転機あいているだろうか。」

こんな思いで始まる一日。学級通信を始めて二年目。教師としての自分の足あととそのものだ。雨の日も風の日もというわけにはいかなかった二年間、今年こそは毎日発行を目ざしてやろうと決意も新たに始めた。

前日の子供の生活記録・できごと、母親の記録を中心に学級通信を構成する。生きた子供の姿をその日のうちにとらえなくてはならない。

「今日の朝の会は『水曜スベシャル』をやります。教室へ行く」と子供たちは、日直班が司会をして朝の会をやっている。さつき取材が始まる。K君のヨー・A君、O君のものまね。



頭の中に刻み込む。その間に生活記録に目を通す。「A子さん自分勉強やる気になったな。M子さんのところはお父さんが書いてくれた。」頭の中で通信のわく組みが始まる。放課、授業中、全てが取材の場だ。

夕方、学校を離れ下宿へ。夕食後机に向かう。頭の中を子供の一人一人、できごとの一つ一つがかけ巡る。「今日のタイトルは、『日直のがんばり』だな。」

かり切りが始まる。タイトルのつぶしに二十分もかかった。ぶつづけ本番で文章を書く。「T子は先週載せたから今日はやめ。T君の詩、下手だけどこの頃あまり目立たないから載せよう。」公平だけをモットーに記録を載せる。できあがるまでに約一時

間半。続けるということは苦しいものだ。

「今日は輪転機あいているだろうか。そんな思いで登校。印刷。」どうもつぶしがいかんない。満足する時はめつたにない。

朝の会の時、子供に配る。じつと見ている。読んでいる。A君、O君がニコツとする。T君がうれしそうにこちらを見る。「T君、またやる気になってくれるだろう。」そんな甘い思いが頭に浮かぶ。

この五分間の子供の顔と目が学級通信を書き続けさせる。

S子が、右手にけがをして左手で生活記録を書いて来た。「T子もがんばってるな……。」

## リコーダー指導

福岡中 尾崎弘明

「この笛はアルトリコーダーといって……。」

「こんなでつかいの、見たことないぞ、指がどくのか。」不安とも期待ともれない話し声が聞こえてくる。

音楽の嫌いな子どもはいないと半ば独りよがりの自信をもって教師になり、音楽嫌いな子どもに直面して自己嫌悪に陥った

こともあった。しかし、こんな時、私を救ったのは、音楽好きになった小さな頃の思い出であった。何の抵抗もなく、声が出て笛が吹けた満足感がなければ、現在の私はなかったであろう。

そのように考えて音楽嫌いの子どもと比べてみると、それらの子どもたちは完成の満足感を持たない前に、「できない子」として判定されたように思えてしかたがなかった。

そこで子どもたちに、できることの楽しさを味わわせようと思ひ、アルトリコーダーを使う方法をあれこれ考えた。中学生になると変声期になり歌唱教材では不可能だろうし、合奏もできると思つてアルトリコーダーに決定したのだが、子どもには個人差があり一定の尺度では判断できないことで評価の面で困った。しかし、今は音楽嫌いを一人でも減らすことであつて、成績ではないと判断した。

まずは子どもに与える楽譜の整備から始めた。左手だけで演奏できる曲から、右手を使う曲へと練習曲を作つたり、市販の曲集から抜き出したりして作つてみた。また、その進み方は個人の自由として自分の進度を診断カードに記入させるようにし

た。またそのカードに毎時の目標と反省を書く欄を設けて次時への橋わたしを考えた。

このようにして音楽嫌いを減らそうと試みた結果、笛が吹けるようになった喜びから音楽が楽しくなった子どもが生まれるようになってきた。こうなれば上に進むのは容易である。音楽は聞くだけのものではなく自分で演奏して楽しむものでもある。

どちらが欠けても本当の音楽はわからないままで終わつてしまつたのでは、音楽の本当の楽しさを知る人が限られてしまう。私の試みが成功したか否かは、子どもたちが大人になった時も演奏できるかどうかで決まると思う。





【寄贈刊行物・資料等】

◇研修会に学ぶ

新任教員研修運営委員会編  
新任研修参加者の感想記録・  
ガリ版印刷・B5・一〇〇頁

◇心身障害児教育ハンドブック

愛知県教育委員会編  
心身障害児の教育相談・就学

指導・教育指導について述べる。  
A5・一〇九頁

◇社会科第三学年指導計画案

市現職教育社会科小学校部会編  
準教科書郷土読本「おかさき」  
利用の手引書・B5・三五頁

◇岡崎の学校保健29号

市教委・市学校保健会編

まとめ、次のように実施され  
ることになった。

▽初級カウンセラー養成

岡崎市小年自然の家指導者講  
習会参加者を初級カウンセラー  
として認定する。

▽中級カウンセラー養成

文部省等の中央研修会（四泊  
五日程度）に初級カウンセラー  
から選ばれて派遣する。  
修了者は自然の家指導者講習  
会の講師に充てる。

■ことしの研究発表表

本年度の研究校の発表時期と  
研究主題が次のように決まった。

▽六月・甲山中Ⅱ甲山教育課程  
の創造▽七月・美合小Ⅱ言葉を  
大切にしたい読み指導▽九月・山  
中小Ⅱ書く意欲を高め表現力を

育てる▽十一月・三島小Ⅱ体力  
づくり▽十二月・東海中Ⅱふれ  
あいを大切にする教育（表現を  
通して）・矢作中Ⅱ教え方のみ  
なおし▽一月・藤川小Ⅱ図書館  
教育（全国学校図書館協議会研  
究指定校）▽二月・大樹寺小Ⅱ

■甲山中の研究発表

▽期日6月23日・AM8時30分  
から▽主題Ⅱ甲山教育課程の創造  
その編成と展開（全教科・サー  
クル活動）▽内容Ⅱ研修発表会  
・公開授業・サークル活動・分  
科会協議・講演会（白梅学園短  
期大学長：細谷俊夫先生）

市内小・中学校校庭に槌音響く

校舎・体育館・プール建設急ピッチ

四月十一日、竜美丘小の校舎  
増築起工式を始めとし、いま、  
市内小中学校は嬉しい起工式ラ  
ッシュに沸いている。プレハブ  
教室（特別教室を含む56教室）  
の解消と前年対比41の学級増に  
対応するものである。

一方、義務教育や社会教育の  
体育施設の充実を目指し、体育  
館、プールの建設も同時並行し  
て進められ、岡崎市の義務教育  
施設の整備は急速に進んでいる。  
本年度の建設物の種別及び規  
模は次のとおり。

▼校舎建築 ▼梅園小Ⅱ普通教  
室三ほか（6/1着工予定）▼  
根石小Ⅱ普通教室六ほか（4/  
28着工）▼三島小Ⅱ普通教室六  
ほか（4/28着工）▼竜美丘小  
普通教室十一ほか（3/30着工）

▽本宿小Ⅱ普通教室六ほか（4  
/28着工）▼細川小Ⅱ普通教室  
八ほか（4/28着工）▼大樹寺  
小Ⅱ普通教室六ほか（6/1着  
工予定）▼大門小Ⅱ普通教室六  
・特別教室四ほか（3/30着工）  
▼矢東小Ⅱ普通教室八・特別教  
室一ほか（3/30着工）▼矢北  
小Ⅱ普通教室六ほか（4/28着  
工）▼矢西小Ⅱ普通教室二・特  
別教室三ほか（5/27着工）  
▼六北小Ⅱ特別教室四ほか（6  
/1着工予定）▼六南小Ⅱ普通  
教室六ほか（4/28着工）▼南  
中Ⅱ普通教室四ほか（4/28着  
工）▼矢中Ⅱ普通教室五・保健  
室一ほか（5/31着工）▼六ッ  
美中Ⅱ普通教室四ほか（4/28  
着工）

▼体育館建設・4/27同時着工  
▼緑丘小▼岡崎小▼竜谷小▼生

第五回岡崎市民大学開設のおしらせ

岡崎市外の方々からも極め  
てレベルが高いと評価されて  
いる当市の市民大学がことし  
五回目を迎える。

「明日の岡崎を考える」を  
統一テーマに、左記要領によ  
り開設される。

張り切って準備を進めてい  
る大学運営委員会では、より  
多くの教職員と市民の参加を

期待している。  
▽日程と講師

①7月23日「家康論の視点」  
上山春平（京都大学人文科学研  
究所教授）・②8月6日「人の  
脳における感覚のしくみ」勝木  
保次（国立生物科学総合研究機  
構長）・③8月20「未知の土  
地」開高健（作家）・④8月27

日「宗教とは何か」山田無文（

妙心寺管長）・⑤9月3日「  
旅に拾う」佐々木久子（月刊  
誌「酒」主幹）・⑥9月27日  
「日本の進路」都留重人（朝  
日新聞論説委員）

▽会場 県勤労会館

▽会費 一〇〇〇円（講座ノ  
ート・会報・終了証等実費）

岡崎市民大学運営委員会

岡崎市民大学運営委員会



市の最北端、谷間に細長く点在する小部落、この地に学制発布以前から学校があったのには、それなりのいわくがある。

明治三年と言えば新政府は誕生したものの、なお維新の混乱は渦をなしていた時代である。大給松平氏を藩主にいただいた奥殿藩政の下で安穩に暮らしていた人々も大きな不安をもたらしたにちがいない。この時勢下に、代々の大庄屋でもあった加藤家の当主、善八郎氏は「将来を教育にかける」と同志をつのり、林宮寺内へ学校をつく

つたのである。香山学校（後の奥殿小学校）の誕生である。

その後、廃寺に伴って村のどこに学校をつくるか「紛議七年に及ぶ」事態となる。この時、氏は私財を投げうって現在地に学校を建て「養蚕所を作ったが良かったら学校に。」と提供されたそうである。この碑は学区や近在の人々が氏の功績をたたえ明治四十三年に建立されたもので、旧藩公大給恒氏（当時、伯爵）が題字を寄せている。

## 加藤翁碑



点

所在地 岡崎市奥殿町

●カット

福岡小 深谷友一

## この本を

- |              |           |         |
|--------------|-----------|---------|
| ○生活指導の理論と方法  | 坂本昇一      | ¥ 2,200 |
| 文教書院         | 林 竹二      | ¥ 980   |
| ○学ぶということ     | 国土社       | 中根千枝    |
| ○タテ会社の力学     | 講談社現代新書   | ¥ 390   |
| ○遠慮と貪欲       | ハバート・パッシン | ¥ 630   |
| 祥伝社          | 大西克寛      | ¥ 750   |
| ○ああ・イタリア     | 朝日ソノラマ    | ¥ 280   |
| ○宇宙空間への招待    | 岩波書店      | 江崎玲於奈   |
| ○新・日本インソップ物語 | 日刊工業新聞社   | ¥ 880   |
| ○こめと日本人      | 家の光協会     | ¥ 880   |
| ○日本文学史早わかり   | 講談社       | ¥ 980   |
| ○日本の美・大和路    | 集英社       | ¥ 3,900 |

「落し文」というものが、今、あなたの近くに落ちてゐる。甲虫（ゾウムシの一種）が、卵を産むため筒状の巻き葉にしたものである。

こんなものから、つけ文を連想した古人の夢がほほえましく名づけに感心する。落し文端や、解けて拾へとや

爽雨

## シオシア

寸とか尺とかにお別れて、もう十九年にもなる。メートル法一本やりになつたはずなのに……。

「審査員をお願いします。」  
「エッ、この私に？」  
今日の放送は「松の木音楽会」、テレビ映りを気にしながらすまして座った。初出演のK君の震えが伝わってくる。年甲斐もなく、私もドキドキだ。

終わったら、「先生、とても優しくみえたよ。」と、冷やかされてしまった。

アジサイの花にかたつむり、むし暑い梅雨時の風物詩の一つ。  
今日の体育はどうなるやら、雨で工事がおくれなにかなど、梅雨前線の動きを気にしながらの毎日。  
雨にぬれた庭にひっそり南天の白い花。この花の散らない限り梅雨はあけな

い、とたしか荷風の文にあつたが……

どうもこの世界は、理屈では、はかりがたいものがあるらしい。